

2024 年度秋季における刺網でのホンモロコ漁獲物調査

寺井章人

1. 目的

ホンモロコの適切な資源管理には正確な資源評価が必要不可欠である。これまで RVPA による資源評価（別記載）に必要な漁獲物の年齢別体重や年齢構成の情報は、沖曳網（本種の漁獲の約 2/3 占める）漁獲物のデータを用いていた。しかし、刺網による漁獲も全体の約 1/6 を占めることから、秋季の主な漁法である刺網の漁獲物のデータも評価に反映させることで資源評価の精度が向上するものと考えられた。そのため、2023 年度に実施した RVPA による 2021 年の資源量評価では刺網漁獲物のデータも反映させている。そこで、今後も資源評価等に活用するための重要な基礎データとするべく、2024 年の刺網によるホンモロコの漁獲物のデータを取りまとめた。

2. 方法

2024 年 10 月 7 日～11 月 6 日に琵琶湖北湖の沖合で刺網により漁獲されたホンモロコ 792 尾を対象に調査を実施した。標本は冷凍保存し、解凍後に体長、体重等を計測した。年齢査定は鱗の輪紋の乱れを観察することで行った。結果は 2023 年のものと比較した。

3. 結果

2024 年秋季の刺網による漁獲物の平均体重は 11.7g で 2023 年の 10.8g との間に統計的に有意な差は見られなかった ($p > 0.05$) (図 1)。刺網は使用する網の目合いで漁獲物のサイズが決まることから、近年の秋季のホンモロコ市場では体重 11～12g 程度のものが漁獲物として需要が高いことが窺える。

その一方で、2024 年の秋季刺網漁獲物の年齢構成は、0 歳魚が 182 尾 (23.0%)、1 歳魚が 606 尾 (76.5%)、2 歳魚が 4 尾 (0.5%) であり、2023 年 (0 歳魚 70.2%、1 歳魚 29.6%、

2 歳魚 0.2%) と比べ 0 歳魚の割合が著しく低下し、年齢比率に大きな変化が見られた (図 2)。これは 2024 年の 0 歳魚の生息量が特別に少ないのではなく小型であったため (別記載)、秋季に市場が求めるサイズ (体重 11g) に達していなかった可能性を示す。

以上から、2024 年度は 0 歳魚が小型であったため、例年よりも秋季に 1 歳魚以上が選択的に多く漁獲されたものと推察される。それが今後の資源や翌年の再生産にどのような影響を与えるか注視していく必要がある。

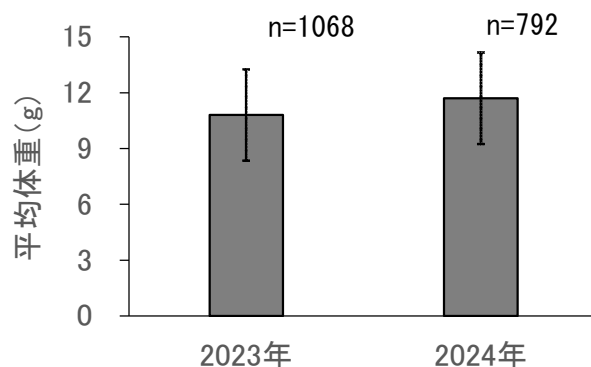


図 1 秋季刺網漁獲物の平均体重
※エラーバーは標準偏差

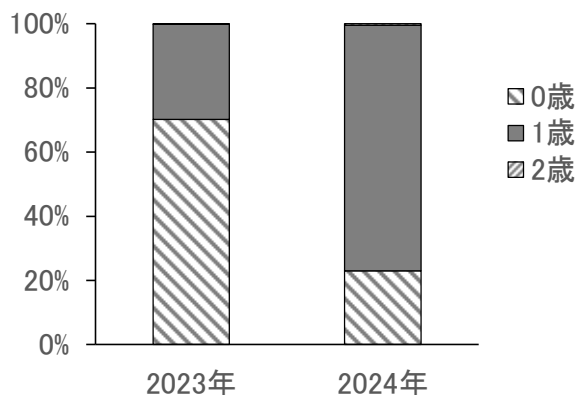


図 2 秋季刺網漁獲物の年齢組成

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。